

インフォメーション・コーナー

会 告

○2020年度農業農村工学会大会講演会のWEB投稿受け付けを開始しました 投稿受付締切 4月10日	72
○今年もやります！ 農業農村工学会ミニ動画コンテスト“こりゃ映像！2020” 応募締切 7月31日	72
○学会誌企画・編集委員会 学生委員の募集 応募締切 3月31日	72
○新刊「改訂6版 農業農村工学標準用語事典」の発刊	73
○学生会員入会時の特典～新刊の用語事典がセットで従来価格据置きです！～	73
○「農業農村工学会学術基金」への募金のお願い	73
○学会誌掲載報文等によるCPD通信教育の参加者募集！！	74
○2021年の学会誌表紙写真の募集 春季締切 6月30日	74
○「水土の知（農業農村工学会誌）」への投稿お待ちしております！	75
○農業農村工学会論文集におけるコレスポンディングオーサーの記載	77
○国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」への投稿のお願いと 2018年7月から2020年6月までの編集事務局	77
○令和元年度農業水利研究部会研究会の開催（第2報）  3月14日開催	78
農業農村工学会論文集 内容紹介	79
農業農村工学会技術者継続教育機構認定プログラム（一般参加可）一覧	81
受入れ図書	83
学会記事	83

会員のみなさまへ

- 4月には、転勤・卒業などで多くの会員の方々が異動されます。
引き続き学会誌を正しくお届けするために、転職・転居などで個人情報に変更のあった方は、suido@jsidre.or.jpまでご連絡ください。また、学会ホームページの会員専用サイトからも会員登録情報の確認および変更手続きを行うことができます。
- 2020年1月時点で2019年度会費が未納の方へ、再度請求書をお送りしております。
3月末日までにお納めください。

第88巻第4号予定

展望：大村 仁

小特集：農業農村工学分野におけるJABEE認定プログラムの可能性と課題

報文：改組による学科の大規模化が地域工学コースに与えた影響：石井将幸

報文：工学系教育における国土・地域・都市の歴史と農業農村工学：堀川洋子

報文：東京農業大学におけるJABEEプログラムの現状と今後の方向性：小梁川 雅

報文：農業農村工学分野におけるJABEE認定プログラムの将来：近森秀高

報文：持続可能な高知大学のJABEE認定教育の実現に向けて：藤原 拓ほか

技術レポート

北海道支部：水理実験モデルを活用した落差工整備：高田真二ほか

東北支部：ゲート一体型ポンプによる排水対策の施工事例：蛭名芳徳ほか

関東支部：ため池の耐震対策の検討事例：松本恵二

京都支部：ため池の水位低下による地震および洪水対策：東野智幸ほか

中国四国支部：レーザー測量のデータを活用した3D構想図の作成：半田泰久

九州沖縄支部：硫黄山噴火に伴う代替水源確保対策：岩元 浩

農業農村工学会行事の計画

農業農村工学会行事について、下表のように計画しています。ふるって参加くださるよう、お待ちしております。

Ⓟのマークは、技術者継続教育機構の認定プログラムとして認定されたもの、および認定申請中のものを表しています。

開催日	主催	行事名	テーマ	開催場所	掲載号
2020年 3月10日	水土文化研究部会	第17回研究会	Ⓟ 〈水土〉のエコノミー	東京都	88巻1, 2号
2020年 3月14日	農業水利研究部会	令和元年度研究集会	Ⓟ 農業水利研究を考える	東京都	88巻2, 3号
2020年 8月25～28日	大会運営委員会	2020年度(第69回)農業農村工学会 大会講演会	Ⓟ —	鹿児島市	87巻12号 88巻1号

2020年度農業農村工学会大会講演会のWEB投稿受付を開始しました

すでにお知らせしましたように、2020年度農業農村工学会大会講演会は、鹿児島大学農学部において2020年8月25日(火)、26日(水)、27日(木)、28日(金)の4日間開催します。

大会講演会発表の申込み(WEB投稿)の受け付けを3月1日より開始しました。

詳細は学会ホームページの大会講演会

<http://www.jsidre.or.jp/zenkokutaikai/>
をご覧ください。

WEB投稿受付期間：

2020年3月1日(日)～4月10日(金)

今年もやります！ 農業農村工学会ミニ動画コンテスト“こりゃ映像！2020”

農業農村工学会広報委員会では、昨年に引き続き、下記のとおり、農業農村工学を紹介する動画を広く募集します。

1. 応募締切 2020年7月31日(金) 17:00
2. 動画の制限時間 60秒以内
3. 2020年度のテーマ 農業用水
4. 応募資格 なし(どなたでも応募できます)
5. 応募方法 動画をYouTubeへ指定されたタブを付けてアップロードする。
6. 審査方法 広報委員会動画ワーキングチームで審議の上、最優秀賞1作品、優秀賞2作品を決定する。
7. 賞金 最優秀賞(1作品) 2万円
優秀賞(2作品) 各1万円
8. アップロード方法
 - ① 動画を作成する。
 - ② YouTubeにアップロードする(9. 参考資料を参照)。
 - ③ タグに3つのワード(jsidre2020, こりゃ映像, (農業用水))を入れる。
 - ④ カテゴリに「科学と技術」を選ぶ。
 - ⑤ 下記の情報を広報委員会動画WT(new-suido@jsidre.or.jp)宛にメールで送る。

入賞賞金をお渡しするのに必要な情報(氏名, 年齢, 性別, 所属, 連絡先, YouTube動画のURL)

9. 参考資料

- ・YouTubeにPCから動画をアップロードする方法
<http://douga-tec.com/?p=4974>
- ・スマホからYouTubeに動画をアップロードするには—Android入門
<http://android.f-tools.net/Q-and-A/YouTube-Upload.html>

<参考>こりゃ映像2019 結果(テーマ:農業用水)

最優秀賞:津軽を潤す農業用水

弘前大学 森田七海

<https://www.youtube.com/watch?v=F1o4-UXFjG4&feature=share>

優秀賞:3匹のこぶたで学ぶ農業用水

農研機構農村工学研究部門 新村麻実

<https://youtu.be/ByN1E1X1szQ>

優秀賞:奄美群島 沖永良部島

studio GHIKLI

<https://www.youtube.com/watch?v=YkaRDwJdESI>

学会誌企画・編集委員会 学生委員の募集

学会誌企画・編集委員会では、学生向けの企画などを担当していただく学生委員を募集いたします。

募集要領は次のとおりです。ふるってご応募ください。

1. 応募資格

- (1) 学生会員であること(応募時に入会可)
- (2) 年3回程度開催の委員会(東京都港区新橋にて開催)に出席できること(旅費を支給します)

- (3) E-mail, Web が使える環境にあること
 (4) 指導教官の承認を得ること
2. 任 期 2020年4月から最長で2年。卒業、就職等で途中退任も可
3. 募集人数 2名
4. 応募締切 2020年3月31日(火)
5. 応募方法 下記①～⑦を記入の上、henshu@jsidre.or.jpまでメールでお送りください。

- ①会員番号, ②氏名, ③大学名, ④2020年4月からの学年,
 ⑤年齢, ⑥承認を得た指導教官名, ⑦連絡先メールアドレス
6. 問合せ
 〒105-0004 東京都港区新橋5-34-4
 (公社)農業農村工学会
 農業農村工学会誌企画・編集委員会
 TEL: 03-3436-3418 FAX: 03-3435-8494
 E-mail: henshu@jsidre.or.jp

新刊「改訂6版 農業農村工学標準用語事典」の発刊

農業農村工学会では、創立90周年の記念事業として、「改訂6版 農業農村工学標準用語事典」を2019年8月27日に出版いたしました。

	会員価格	非会員価格
定 価	3,700円+税	4,500円+税

図書の購入方法

I. 個人・法人の場合(賛助会員を除く)

以下のいずれかによる代金先払いをお願いします。または代金引換をご利用ください。

- ① 郵便振替: 郵便局の払込取扱票の通信欄に図書名・冊数・送付先・担当者名・連絡先をご記入ください。
 振込口座番号: 00160-8-47993 加入者名: 公益社団法人 農業農村工学会

② 現金書留: 図書名・冊数・送付先・担当者名・連絡先を記載した注文書を同封してください。

③ 代金引換: 図書名・冊数・送付先・担当者名・連絡先を記載した注文書に「代引希望」と書き添えてE-mailかFAXでお送りください。別途、代引手数料と送料の実費がかかりますので担当者からご連絡いたします。

II. 官公庁の公費購入および賛助会員の場合

図書名・冊数・送付先・担当者名・連絡先を記載した注文書をE-mailかFAXでお送りください。

III. 送料

1冊200円, 2冊400円, 3冊以上600円

問合せ先 (公社)農業農村工学会 図書係

E-mail: suido@jsidre.or.jp

学生会員入会時の特典

～新刊の用語事典がセットで従来価格据置きです！～

農業農村工学会では、将来を担う若い方達が早くから学会活動に参加することを通じて、よりよく社会に貢献できる環境づくりを目指しています。その一環として、学生の方々が少しでも入会しやすいように、学生会員入会特典を設けております。

これから学生会員として入会をお考えの学生の皆様、是非ご利用ください。

①ハンドブック3点セット

(ハンドブック+用語事典+初年度会費)

学部生 17,000円 (15,750円)

大学院生 19,500円 (16,750円)

②必携3点セット (必携+用語事典+初年度会費)

学部生 7,000円 (5,750円)

大学院生 10,000円 (7,250円)

③2点セット (用語事典+初年度会費)

学部生 5,000円 (3,750円)

大学院生 8,000円 (5,250円)

()内の金額は、10月1日以降(半期)入会の場合。

なお、用語事典を購入した方のうち希望者には、用語事典の内容をスマートフォンなどで閲覧可能なサービスを後日提供する予定です。

ハンドブック: 改訂七版農業農村工学ハンドブック

必携: 資格試験のための農業農村工学必携(第二版)

用語事典: 改訂6版 農業農村工学標準用語事典

問合せ先 (公社)農業農村工学会 図書係

E-mail: suido@jsidre.or.jp

「農業農村工学会学術基金」への募金のお願い

農業農村工学会は、農業農村工学の学術・技術の発展を通じて、わが国農業の近代化に大きく貢献できたものと自負しています。しかし、昨今の日本農業はかつてない厳しい環境におか

れ、農業農村工学の役割も従来に増して一層重要なものとなり、東南アジアをはじめとして全世界的な展開が望まれる状況になっています。

そのためには、若い世代の育成、新たな技術の開発や国際交流の進展が図られなければなりません。学会は、これら諸活動に資するものとして、平成3年4月に学術基金を創設し、これに上野賞基金や富士岡研究奨励基金を統合し、さらに法人・個人有志からの拠出金等をもってこの基金に充てることとしております。

つきましては、会員各位からの多くのご支援をいただきたく、お願い申し上げます。

なお、この学術基金は今後、学生会員のインターンシップの助成にも対象を拡げる予定です。

個人会員一口 5,000円(何口でも可)

法人会員一口 50,000円(何口でも可)

送金方法 銀行振込および郵便振替でお願いいたします。

銀行：みずほ銀行新橋支店

普通預金 No.1569058

口座名 (社)農業農村工学会学術基金

郵便振替：00140-2-54031

加入者名 農業農村工学会学術基金

学会誌掲載報文等による CPD 通信教育の参加者募集 !!

農業農村工学会では、学会員であり、かつ技術者継続教育機構のCPD個人登録者の方がCPD単位を在宅のまま取得できる方法として、平成17年10号から農業農村工学会誌「水土の知」誌上で「CPD通信教育」を実施しています。学会員であり、かつCPD個人登録者は、どなたでも無料で参加することができ、通信教育分【ac】として年間最大24cpdを取得する大きなチャンスとなっています。この機会に、是非CPD通信教育へご参加ください。

なお、解答内容については技術者倫理に則り、自らの責任で送信してください。

1. 参加資格

農業農村工学会の個人会員であり、かつ技術者継続教育機構のCPD個人登録者

2. 出題内容と出題方法

3カ月前に発行された農業農村工学会誌に掲載された報文等の事実的内容から、択一式で毎月10問を出題

3. 解答方法

Web画面に正解と思う番号を入力し、送信(事前にWeb利用登録が必要)

4. 解答期限

問題掲載月の月から翌月末日まで

(例：学会誌3号掲載の問題は4月末日が解答期限)

5. 取得できるCPD単位

10問正解で2cpdを、7~9問正解で1.5cpdを自動登録(正解数6問以下の場合はCPD単位の付与はされません)

6. 自動登録の時期

取得したCPD単位は、解答期限最終日の翌月初旬に自動登録されます。

2021年の学会誌表紙写真の募集

学会誌企画・編集委員会では、2021年発行の学会誌も引き続き学会員の皆さまからの写真などを基本に表紙を飾ることとします。以下の趣旨を参考に魅力ある写真などをふるってご応募ください。

趣 旨

現代に入り農業の近代化のために、農業農村工学の粋を集めた多くの農業(水利)施設が造成され、農業や農村の基盤を支えています。そして、近年、それらも更新や機能保全を重ね施設の様態も変化してきています。さらに、日本の農業農村工学の成果は技術移転により、海外の多くの国々で現地適用され、それらの国々の食料供給と農業生産の基盤を支えています。農業農村の現場で活躍される技術者、現場での調査研究に邁進されている研究者・学生の皆さま、国内外の農村地域における農業施設・構造物、特に新たに完成した施設や施工中の現場事例および国外においては日本の関連技術が適用された事例などの匠(造形美、用の美、融合の美)とそれを含む景観を広く学会員にご紹介ください。

記

1. テーマ

「農業(水利)施設・構造物とそれらに支えられた農地・地域の景観など：現代の最新技術と苦勞が垣間見える造形美・用の美など」

2. 対象巻号 学会誌第89巻(2021年第1~12号)

3. 写真などの種類

応募写真はデジタル、フィルムを問わず六つ切り以上四つ切り以下のサイズにプリントしたものとします。プリントは「写真用紙—フォトペーパー/滑面タイプ」を使用してください。四つ切りワイド、A4サイズも含まれます。なお、六つ切りは203×254mm、四つ切りは254×305mm、同ワイドは254×356mm、A4は210×297mmです。カラー、モノクロは問いません。採用となった写真についてはデジタル写真の場合に限って画像データを送っていただきます。一点につき5MB以下とし、これを超えるものはCDまたはDVDにて送ってください。形式はJPEGのみに限定します。

4. 枚数

応募写真に制限はありませんが、未発表のものに限ります。

5. 締切 春季 2020年6月30日

夏季 2020年9月30日

※応募時、過去1年以内に撮影したものに限りです。

6. 審査 審査委員会（編集委員と写真家）で選考します。

7. 結果発表

学会誌第89巻第1号で採用作品と掲載号を発表し、採用作品は2021年度大会講演会会場内でパネル展示します。

8. 被写体の説明文または「Cover History（表紙写真由来）」の執筆および写真使用料について

採用作品の応募者には、被写体の説明文（500字程度）をご執筆いただきます。また、ご希望の応募者には、撮影の動機、被写体にひかれた点、被写体の説明などを、学会誌掲載の「Cover History（表紙写真由来）」にご執筆いただくことができます。ご執筆の詳細は、採用決定時に応募者に直接お知らせします。また、採用作品には規定の写真使用料（1点につき1万円）をお支払いします。なお、すべての応募作品が不採用となった応募者には記念品をお送りします。

9. 著作権・出版権

採用作品の使用権および出版権は（公社）農業農村工学会に

属します。

10. 注意点

審査は上記の趣旨を十分理解されている写真であるか、表紙写真の質として耐えうるかということを重視します。具体的には、農業施設・構造物の形状や機能が、その写真から十分に読みとれること（花などの情緒物に埋没しないこと）が採用の条件となります。

また、被写体の肖像権や権利関係については許可等、十分ご注意ください。

11. 応募方法および応募先

学会ホームページより、応募票をダウンロードし、タイトル、郵便番号、住所、氏名、勤務先、電話番号、E-mail アドレス、写真のテーマ、撮影場所、撮影年月日、対象物の固有名称（固有名詞）、対象物をめぐる歴史的背景等の説明を記入し、応募写真の裏面に貼付してお送りください。

なお、原則として、応募写真は返却いたしません。

〒105-0004 東京都港区新橋5-34-4

（公社）農業農村工学会

農業農村工学会誌企画・編集委員会「表紙写真公募」係

TEL：03-3436-3418 FAX：03-3435-8494

E-mail：henshu@jsidre.or.jp

「水土の知（農業農村工学会誌）」への投稿お待ちしております！

自主投稿原稿の募集

小特集以外の自主投稿も歓迎いたします。投稿の際には、農業農村工学会ホームページ（<http://www.jsidre.or.jp/>

journal/）に掲載の「農業農村工学会誌投稿要項」、「農業農村工学会誌原稿執筆の手引き」を熟読の上、ご投稿ください。

学会誌第88巻の小特集のテーマ

小 特 集 テ ー マ	要 旨 締 切 (A4判 1,500字以内)
第88巻第4号 農業農村工学分野におけるJABEE認定プログラムの持続可能性と課題（仮）	終了
5号 Society 5.0に向かう農業農村工学（仮）	終了
6号 農業水利施設の補修工法選定上の課題（仮）	終了
7号 九州・沖縄の多様性と農業農村整備（仮）	公募なし
8号 「多様な主体が住み続けられる農村」の振興（仮）	3月10日
9号 農業用ため池の持続的な保全管理手法（仮）	4月10日
10号 高品質化・高収益化のための水管理・灌漑技術（仮）	4月20日
11号 農業水利施設における外来生物対策（仮）	5月10日

今後取り上げてほしい小特集のテーマについても、広く募集しておりますので、学会誌企画・編集委員会あてにお寄せください。なお、小特集テーマが仮題となっているものは、予告なく変更することがございます。

採用された原稿の分量は、刷上り4ページとなっておりますので、ご執筆の際には厳守いただきますよう、お願いいたします。

送付先 〒105-0004 東京都港区新橋5-34-4

（公社）農業農村工学会

農業農村工学会誌企画・編集委員会あて

TEL：03-3436-3418 FAX：03-3435-8494

E-mail：henshu@jsidre.or.jp

第88巻第8号テーマ「『多様な主体が住み続けられる農村』の振興」(仮)

多様な主体が住み続けられる農村社会の構築が求められています。そのために一つには、農村に住むための基礎的条件、さらに、住みたくなる条件の整備を進めていくことが必要です。あと一つには、地域資源を適切に保全管理しながら、同時に持続可能な形で最大限活用し、農業・農村の多様性を活かした農村振興を図ることが必要です(食料・農業・農村政策審議会農業農村振興整備部会の第1回(令和元年6月24日)の配付資料「農業農村整備の新たなフロンティア—新しい時代が到来する中での農業農村整備の課題整理—」)。

具体的には、たとえば「条件不利地域における多様な主体が

連携した地域づくり」として、中山間地域における特産品の産地形成や、営農体制の確立と企業誘致などが挙げられます。また、「担い手以外の者が引き続き住み続けるための方策」として、集落営農による全員参加型の地域農業なども挙げられます(平成30年度水土文化研究部会研究会, 石井克欣農林水産省農村振興局計画調整室長資料)。

本小特集では、「多様な主体が住み続けられる農村」の振興に関する事例を通して今後を展望する報文を広く会員の皆様から募集いたします。

第88巻第9号テーマ「農業用ため池の持続的な保全管理手法」(仮)

農業用ため池について農業農村工学分野では、長年、老朽化対策、耐震性、維持管理、ハザードマップから、多面的機能や生態系まで、広範囲に研究と技術の対象にしてきました。

しかし、近年の大型で強い台風による豪雨や大規模地震により被災が多発するとともに、人命にも影響を及ぼす事象が発生しています。このような状況から、先に政府では、全国のため池の緊急点検を実施し、2019年4月にはため池の適切な管理および保全を目的とした「農業用ため池の管理及び保全に関する法律」(ため池新法)を公布し、2019年7月に施行しました。

ため池は、現在全国に16万7千カ所分布し、その管理も多

くは水利組合や集落など地域に委ねられており、農家の減少や高齢化を背景とする保全管理の体制の脆弱化、さらには廃止を含む検討が必要なため池の存在など、多くの困難な課題を抱えているのが現状です。

このため、これまでの知見や技術を結集し、ため池の持続的な保全管理を技術面から担うことが求められています。

そこで本小特集では、これまでのため池に関する知見や技術をレビュー、整理し、これらを社会に広く発信するとともに、今後必要とされる研究や技術開発素材に関する事項について、幅広い方々からの報文を募集します。

第88巻第10号テーマ「高品質化・高収益化のための水管理・灌漑技術」(仮)

農家の減少が続く中、平成30年末にTPP11も発効するなど、競争力の高い農業が求められる状況はますます強まっています。収益性を高め競争力を強化するためには、高く評価されるための作物の高品質化、およびブランドを確立するなどマーケットの信頼を獲得するための品質の安定化が必要です。食料・農業・農村基本計画や土地改良長期計画でも、消費者ニーズに応じて収益性を向上し、また、輸出量を増加するためにも高品質化の必要性が謳われています。

作物の品質を決める要素は食味に限らず、外観、栄養価や機能性成分含有量などもあります。これらの要素に、作物の生育過程での水分状態が大きく影響します。また、水田では水温も稲の生育に大きく影響します。そのため、作物の高品質化のた

めには、適切に土壌や作物の水分、および水温を制御する水管理・灌漑技術などが重要となります。

作物の水分状態や水田の水温と作物品質の関係は生理的なメカニズムにより決まるものですが、目標とする水分状態や水温を実現するには、灌漑や排水による土壌水分や水温の適切な制御が必要です。そのような制御には、従来の補給灌漑を前提とした技術では適切な対応が難しく、需要主導水管理、少量多頻度灌漑や土壌水分の精緻な把握など、高度な技術の発展も必要です。昨今のICTの進歩はそれらに大きく寄与するでしょう。

本特集では、作物品質の高度化・安定化による高収益化に寄与する水管理・灌漑技術などについて、実践や研究・開発の事例、また、技術の開発・向上に有用な知見などを広く募集します。

第88巻第11号テーマ「農業水利施設における外来生物対策」(仮)

外来生物は、生態系に深刻な影響を及ぼす驚異として、国際的には平成4年の国連環境開発会議において生物の多様性に関する条約が採択されました。わが国では生物多様性の保全と持続可能な利用に関する国の基本的な計画である「生物多様性国家戦略」が平成7年に策定され、4度の見直しにより現行は「生物多様性国家戦略2012-2020」が平成24年に策定されています。また、「特定外来生物による生態系等に係る被害の防止

に関する法律」が平成16年に制定されるなど、さまざまな対策が進められています。農林水産省においても平成20年3月に「外来生物対策指針」を策定、平成27年3月には環境省および国土交通省と共同で「外来種被害防止行動計画」を策定するなど種々の対応を進めています。

外来生物の影響は単に生態系へ影響を与えるのみならず、さまざまな被害が生じる恐れがあります。農業においては被害・

病害・交雑・競争による作物への影響のほか、水路やため池等の水利施設への繁茂・定着による通水阻害や水質悪化、耕地への外来種の侵入による営農活動の阻害などが生じています。

外来生物は、国際化が進み交通の利便性も増して移動・侵入する機会が多くなっています。作物の品種改良や園芸作物としての利用、家畜やペットといった利用目的で積極的に導入されたものが野生化して結果的に悪影響を及ぼすケース等もあり、その侵入を完全に防ぐことは困難です。また、すでに多大な被害を及ぼし、根絶が不可能なほど定着してしまっている種や事

例も見られます。

外来生物の対策には多大な費用・労力を要することもあるうえ、一度侵入されると抜本的な対策は難しく、施設の特長や財政状況といった地域の実情がある中、可能な範囲で個々に対応している実情があります。

そこで、本小特集では農業水利施設に影響する外来生物に関する新しい知見や対策技術、効率的・継続的に実施可能な対策事例など、有用な情報を共有すべく、幅広い方からの報文を募集します。

農業農村工学会論文集におけるコレスポンディングオーサーの記載

農業農村工学会論文集は、現在コレスポンディングオーサーを記載するシステムになっております。投稿される皆様に改めてご案内申し上げます。農業農村工学会論文集投稿の手引き(平成27年3月16日改正：第236回理事会報告)の「6.2 投稿手順」に「⑩追加投稿情報(会員番号、コレスポンディングオーサー等)の入力」の記載があります。

また、投稿システムの著者マニュアル(Ver.15.0～、2018年7月改訂)に「3-6 追加登録情報を入力する」がありますのでご

確認ください。さらに、論文集の完全版下原稿(邦文)の作成例 Ver.5 などにも記載例が示されていますので、併せてご確認ください(学会ホームページ http://www.jsidre.or.jp/how_to_post/ からダウンロードできます)。

なお、掲載済みの論文に遡って、コレスポンディングオーサーの証明を必要とされる方は、農業農村工学会論文集企画・編集委員会(E-mail: ronbun@jsidre.or.jp)まで、ご連絡ください。

国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」への投稿のお願いと 2018年7月から2020年6月までの編集事務局

国際水田・水環境工学会(International Society of Paddy and Water Environment Engineering: PAWEES)では、機関誌として国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」を発行しています。

本ジャーナルは、モンスーンアジア諸国の水田農業工学に関わる研究論文、技術論文が多数掲載されていますので、研究者のみならず、各種事業に携わる技術者にとっても貴重な学術情報誌です。また、2017年のインパクトファクター(IF)は過去最高の1.379となり、国際ジャーナル誌としての位置づけがますます向上しています。

水田農業における土地、水、施設および環境に関する科学と技術の発展への貢献を目的としており、掲載論文の分野は、次のように幅広い内容となっています。

- ① 灌漑(水配分管理、水収支、灌漑施設、栽培管理)
- ② 排水(排水管理、排水施設)
- ③ 土壌保全(土壌改良、土壌物理)
- ④ 水資源保全(水源開発、水文)
- ⑤ 水田の多面的機能(洪水調節、地下水涵養など)
- ⑥ 生態系の保全(水生、陸生動物植物の生態系)
- ⑦ 水利施設と減災・防災(施設管理、地すべり、気候変動、災害防止など)
- ⑧ 地域計画(農村計画、土地利用計画など)
- ⑨ バイオ環境システム(水田農業と水環境、土壌環境、気象環境)

- ⑩ 水田の多目的利用(田畑転換、施設園芸)
 - ⑪ 農業政策(農村振興、条件不利地の支援策など)
- また、世界11カ国からEditor(19名)を選出することにより、国際ジャーナルとしての質を高める編集体制とし、さらに国際的な流通を考慮して、国際出版社として著名なSpringer社からの刊行です。掲載論文は、Review, Article, Technical Report および Short Communication の4種類です。
- 一方、2018年7月から、新たな編集体制をスタートさせました。詳細は以下のとおりです。

編集体制

- ・ Editor-in-Chief: Dr. Takao MASUMOTO (Japan)
Faculty of Bioresource Science, Akita Prefectural University, Akita, Japan
- ・ Associate Editors-in-Chief
Dr. Seong-Joon Kim
Konkuk University, Korea
Dr. Chen-Wuing Liu
National Taiwan University, Taiwan, ROC
- ・ Editors 11カ国から19名
- ・ Editorial Advisors 29名
- ・ Chief Managing Editor
Dr. Kimihito NAKAMURA
Graduate School of Agriculture, Kyoto University, Japan

・ **Managing Editors**

Dr. Eunmi Hong

Kangwon National University, Korea

Dr. Inhong SONG

Department of Landscape Architecture and Rural Systems Engineering, Seoul National University, Korea

Dr. Chihhao FAN

Department of Bioenvironmental Systems Engineering, National Taiwan University, Rep. of China

Dr. Kuo-Wei LIAO

Department of Bioenvironmental Systems Engineering, National Taiwan University, Rep. of China

Dr. Hiroshi IKEURA

Rural Development Division, Japan International Research Center for Agricultural Science (JIRCAS), Japan

Dr. Andrew WHITAKER

Graduate School of Science and Technology, Niigata University, Japan

編集事務局 (2018年7月から2020年6月まで)

・ **Dr. Kimihito NAKAMURA**

Graduate School of Agriculture, Kyoto University, Japan

Oiwake-cho, Kitashirakawa, Sakyo-ku, Kyoto 606-8502, JAPAN

TEL : + 81-75-753-6156

FAX : + 81-75-753-6476

E-mail : nakamura@kais.kyoto-u.ac.jp

投稿先 : オンライン投稿 (<http://pawe.edmgr.com/>) になります。

投稿資格 : 筆者が農業農村工学会員でPWE誌の購読者であること。

投稿要領等 : <http://pawe.edmgr.com/>に詳細を記載しています。

発行スケジュール : 年4回 (オンラインジャーナル)

購読料 : 正会員・名誉会員 9,000円+税

学生会員 (院生含む) 4,500円+税

非会員の方は購読できません。購読を希望される方は、まず農業農村工学会にご入会の上、お申し込みください。

なお、オンラインジャーナルへの完全移行に伴い、2016年度からの購読はパスワードによるWeb上での閲覧になっています。冊子体の配布はありません。

申込先 : 農業農村工学会事務局 (suido@jsidre.or.jp) まで会員番号を明記の上、お申し込みください。

令和元年度農業水利研究部会研究集会の開催 (第2報)

技術者継続教育機構認定プログラム申請中



農業水利研究部会では、令和元年度農業水利研究部会研究集会を下記のとおり開催いたします。皆様のご参加をお待ちしております。

1. 期日 令和2年3月14日(土) 14:00~16:00

2. 場所 東京農業大学世田谷キャンパス

1号館3階 311教室

東京都世田谷区桜丘1-1-1

最寄駅: 小田急線経堂駅下車 徒歩15分

3. テーマ 農業水利研究を考える

4. 題目および講演者

(1) 平成における農業水利研究の動向 (仮)

宇都宮大学 松井宏之

(2) 地下灌漑システムの利用状況と巧みな利用例

宮城大学 千葉克己

(3) 農業水利研究に関する討論

5. 参加費 無料

6. 参加申込みおよび問合せ先

農業水利研究部会事務局

〒321-8505 栃木県宇都宮市峰町350

宇都宮大学農学部農業環境工学科 松井宏之

TEL&FAX : 028-649-8638

E-mail : matsuih@cc.utsunomiya-u.ac.jp